

# 「これからの時代の地域デザイン」

～いかに国土、まもる国土、つかう国土～

平成27年8月策定の新たな国土利用計画（全国計画）における「複合的な効果をもたらす施策」や「選択的な国土利用の推進」の考え方について、参考となる取組事例とともに紹介しています。

## 今、なぜ「地域デザイン」なのか？

～これからの土地の使い方を改めて考える理由～

### 色々なことが起こります

本格的な人口減少社会において、これまでの土地利用や管理を維持できなくなる地域が増加することや、気候変動の影響が災害リスクなどの形で日常生活に及ぶことなどが懸念されています。



### 一方でチャンスでもあります

人口減少に伴う開発圧力の低下は、余裕を生み出す機会でもあります。これまでとは違う発想で、土地を新たにうまく利用したり、管理を続けていく取組によって、持続可能な地域づくりにつながる例も見られます。

例えば……こんなこと起きていませんか

①大雨など災害リスクの増大



②農地の荒廃や森林の手入れ不足



③野生鳥獣被害の深刻化



④失われてきた自然



例えば……こんなことをやっている例も

①水循環を活かし守る



②荒廃農地の新たな利用



③バイオマス資源として利用



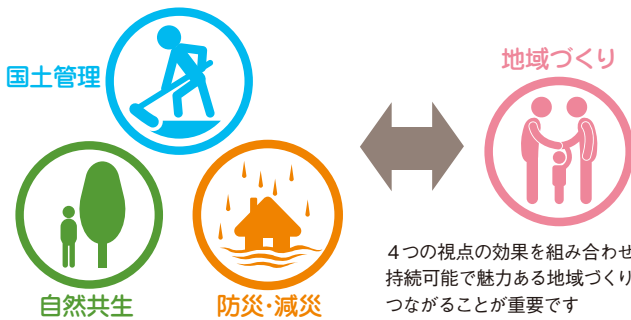
④防災と生態系保全の両立



A4判カラー 32ページ  
平成29年3月発行

●冊子をご希望の方は国土管理企画室  
(03-5253-8359)へお問い合わせ下さい  
●国土交通省 Web サイトからも  
ダウンロード可能です  
<http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku.html>

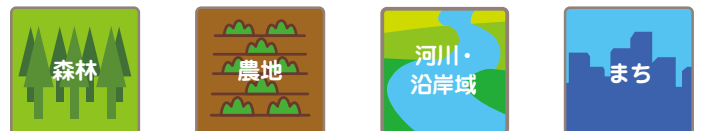
## 対象地のタイプ、きっかけや目的、内容など様々な事例を紹介



- ① 防災・減災を意識した計画的な森づくり（愛知県豊田市）
- ② 地域住民の手で放置竹林、山林を再生（三重県多気町）
- ③ タンチョウも飛来するまちづくり（北海道長沼町）
- ④ 野川の湧水保全と流域雨水管理（東京都野川流域自治体）
- ⑤ 「内陸のフロンティア」を拓く取組（静岡県）



写真提供：豊田市、多気町、静岡県



- ⑥ 住民主体の将来土地利用計画の検討（兵庫県丹波市）
- ⑦ 綾の照葉樹林プロジェクトによる復元活動（宮崎県綾町）
- ⑧ 早生樹の苗木生産と荒廃農地等への植林（広島県）
- ⑨ 農業用水の多面的活用による地域づくり（三重県多気町）
- ⑩ 野生鳥獣被害対策を通じた新たなムラづくり（新潟県新発田市）
- ⑪ 牧草栽培に適さない土地への植林等（北海道浜中町）
- ⑫ 自然堤防の機能を守る海岸砂丘系の保全（北海道石狩市）
- ⑬ 協議会による治水計画の提案と合意形成（鳥取県米子市）
- ⑭ グラウンドワークによる調整池の利活用（高知県日高村）
- ⑮ 先人の知恵を活かした「平成の命山」の整備（静岡県袋井市）
- ⑯ 希望の芝プロジェクト（宮城県東松島市）

# できるだけ複合的な効果を発揮することを考えよう

地域の課題やきっかけを元に、地域デザインの視点で土地利用の工夫にもつながる取組を考えていく時に、できるだけ下記の4つの視点を組み合わせて複合的な効果をもたらすようにすることで、国土の利用価値を高めることができます。

## ① 国土の管理水準等の低下を防ぐ「適切な国土管理の視点」の例

- 荒廃をふせぐ管理がされる
  - ・農地の適切な維持管理
  - ・森林の適切な維持管理
  - ・防犯面の不安や不法投棄等を防ぐような管理
- 適切に利活用される
  - ・効率的な利用の創出や維持
  - ・新たな用途の創出
- 健全な水循環が確保される
  - ・流域の一体的な保全
  - ・都市における雨水管理（雨水貯留・浸透等）

## ③ 居住の安心・安全や災害時の被害軽減につながる「防災・減災の視点」の例

- 居住の安全・安心が確保される
  - ・災害リスクの高い地域の土地利用が適切に制限される
- 災害時の被害が軽減される
  - ・被災リスク（脆弱性）が軽減する
  - ・被害拡大の防止につながるライフライン等の多重性・代替性が確保される
- 国土の保全機能が高まる
  - ・農地の保全管理
  - ・森林の国土保全機能

## ② 自然環境の保全・再生・活用につながる「自然共生の視点」の例

- 自然環境が保全・再生される
  - ・生態系ネットワークの形成
- 再生可能な資源利用等が進む
- 自然環境の機能が積極的に活用される
  - ・グリーンインフラの取組推進
- 美しい景観が保全・再生・創出される
  - ・魅力ある都市空間や水辺空間等の保全・再生
- 生物多様性保全と人間活動の調和が図られる
  - ・野生鳥獣被害を軽減する

## ④ 経済的・社会的なプラス面をもたらす「地域づくりの視点」の例

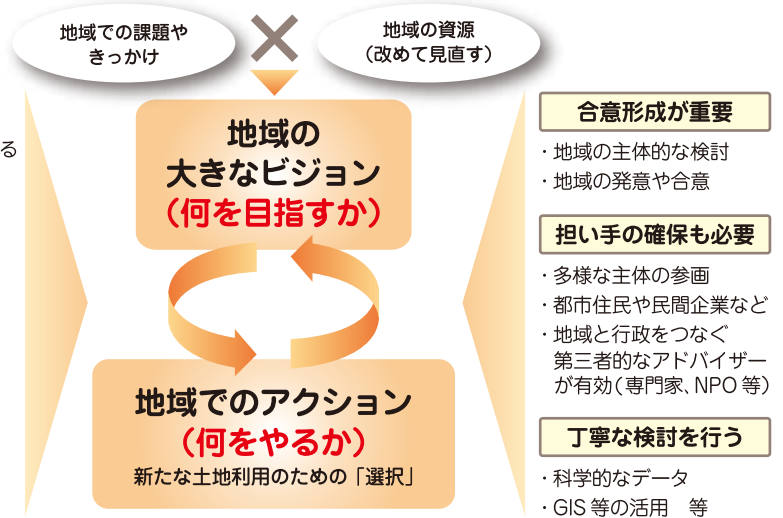
- 経済的なプラス面がある
  - ・管理に係るコストが低減する
  - ・経済的な事業効果
  - ・地域ブランドの形成に貢献する
- 社会的なプラス面がある
  - ・コミュニティの維持・活性化につながる
  - ・地域外との人的交流が促進される
  - ・レクリエーション等に活用される

## 地域で土地の使い方を改めて考える～選択的な国土利用～

人口が減少する時代においては、管理コストを低減させたり、これまでとは違う土地利用の工夫が重要になります。一方で開発の圧力は減っていくことを考えれば、逆に新たな使い方を考えるチャンスでもあります。



写真提供：NPO 法人いしかり海辺ファンクラブ、豊田市、東京都建設局河川部、立梅用水土地改良区、綾町



### 「最適な使い方の選択」のポイント

- ・ある土地に対して、**最適な土地利用**を選択すること
- ・プロセスにおいて、**合意形成により自らの地域の土地利用**を選択すること
- ・その結果として、**コスト・手間をかける土地**を選択するという側面もあること

### 重要な観点

- ・土地の履歴や特性をふまえる
- ・管理コストを低減する工夫
- ・必要に応じて新たな用途も考える

### 留意事項

- ・広域的な見地
- ・長期的な見直し
- ・土地の所有から利用の視点の考慮 等

### 合意形成が重要

- ・地域の主体的な検討
- ・地域の発意や合意

### 担い手の確保も必要

- ・多様な主体の参画
- ・都市住民や民間企業など
- ・地域と行政をつなぐ
- ・第三者的なアドバイザーが有効（専門家、NPO等）

### 丁寧な検討を行う

- ・科学的なデータ
- ・GIS等の活用 等

その土地利用の背景となる条件・ポテンシャルを最大限に発揮させ、持続的な利用ができるよう、地域の状況にあわせて様々な視点で「選択」をしながら、地域デザインを実現する土地利用を検討